

仙台市公民館運営審議会議事録

(令和3年8月定例会)

○ 日 時

令和3年8月26日(木) 午前10時00分～11時45分

○ 会 場

仙台市生涯学習支援センター 5階 第1セミナー室

○ 出席者

〔委員〕 相澤雅子委員、安藤歩美委員、市瀬智紀委員、大内幸子委員、幾世橋広子委員、
後藤武俊委員、佐々木稔委員、佐藤正実委員、高橋卓誠委員、福士定男委員、
牧靖子委員、松田道雄委員、八十川淳委員

〔事務局〕 生涯学習支援センター：センター長 木田、センター次長 千葉、主幹兼事業係長 福本
青葉区中央市民センター：センター長 佐々木
宮城野区中央市民センター：センター長 石川
若林区中央市民センター：センター長 湯村
太白区中央市民センター：センター長 渡部
泉区中央市民センター：センター長 内海
公益財団法人仙台ひと・まち交流財団：市民センター課長 古城

〔傍聴人〕 なし

○ 資 料

次第

資料1：仙台市市民センター事業（子ども参画型社会創造支援事業）調査研究報告書（案）

資料2：本日の協議の進め方

参考資料1：令和3年7月1日審議会グループ討議記録

1 開 会

(資料の確認)

事務局：本日は、13名の委員の皆様にご出席いただいております。仙台市市民センター条例施行規則第10条第3項の規定により委員の過半数である8名以上の出席を満たしておりますので、有効な会議として成立しておりますことをご報告申し上げます。

2 挨 拶

(センター長挨拶)

事務局：ここからの進行は会長にお願いいたします。

会長：この審議会は原則公開になっておりますが、傍聴の希望はございませんか。

事務局：本日はございません。

会長：次に議事録の署名委員です。名簿順で、前回は高橋委員でしたので、今回は福士委員にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

3 協 議

(1) 仙台市市民センター事業（子ども参画型社会創造支援事業）の調査研究について

- ・事務局から、資料1、2により、本日の協議は、前回から引き続き同じメンバーでグループに分かれ、前回作成した調査研究報告書の「まとめ」をブラッシュアップし、報告書全体の完成に向けて議論することが提案され、承認された。
- ・上記承認を受け、グループ討議が行われた。討議終了後の議事については以下のとおり。

会長：皆様どうもありがとうございました。ここまでの段階で、各グループ間での情報共有と全体としての整合性の確認をしておきましょう。

では、まず第1グループから報告をお願いします。読んでいただくだけで結構です。

委員（第1グループ）：「子どもの人間性と主体性を育てる視点から」と、当初の題名に「人間性」という文言を加えて作成してみました。読み上げます。

「学校教育とは異なる場としての各市民センターにおいて、創意工夫した子ども参画型事業が行われている。その現場を視察して、生き生きと活動している子ども達の姿を見ることができた。のびのびと意見を言い合えること、子ども達が年齢や学年を越えて協力できていること、地域の特色を生かして活動していること、様々な大人たちが支援していることなどが実現できていると考えられる。子ども達が地域づくりに参画し役立っているという自己肯定感を育むことにつながっている。」

会長：ありがとうございました。それでは第2グループお願いいたします。

委員（第2グループ）：私達は「市民センターの役割の視点から」ということで、言葉使いが難しかったのですが、すっきりとまとめることができたと思います。

「市民センターには、地域の中で、子どもと地域の団体をつないだり、地域住民との交流や学校や学年を越えた交流を確保する役割がある。そのため、市民センターでは、学校、家庭、地域だけではできない活動を提供していくため、職員が子ども達と共に歩む気持ちを持って、子ども達の豊かな発想やおもてなしの心を育むことを心掛ける。また、子どもと地域住民の積極的な関わりを生み出すため、幅広い活動の場を提供し、その成果を持続可能な取り組みにしていこうと努める。これらの活動を通じて、多様な人々や団体とのつながりを作っていくことを求められている。さらには、今後子ども達の飛躍のために、市民センター相互が連携し、他地域の事業と交流できる場を確保する必要がある。」

会長：ありがとうございました。

この後の進め方ですが、第3グループから発表していただいた後、予定通りに、委員の皆さん全員から、全体を見て直した方がいいと思われる点について述べてもらいます。全く異議なし、了解ということであれば、その旨を一言いただければ結構です。最後に、全員でこの時間内に様々な視点から見て、言葉使いなど少しでも直せるところがないか確認しましょう。

文字が統一されているか、主語述語が的確になっているか、前後の文章に整合性があるか、全体を通して我々の意図した提言になっているか、足りないことがないかなど、色々な切口があるかと思います。

それでは、第3グループお願いします。

委員（第3グループ）：第3グループは、「地域づくりへの広がり視点から」ということで話し合いました。2人の委員の方に新たに加わっていただいて、前回まとめた内容に新しい言葉を付け加えることができました。地域の魅力というだけではなく、そこには課題もあるだろうということで、それを新たに入れたこと、また、前は「子ども事業に注力する」としていた箇所を、「子どもと大人が協働する」という文言に置き換えるといった修正を加えました。読み上げます。

「子ども達の視点による活動は、地域の魅力の新発見と、まちを元気にする力があり、周りを巻き込む力がある。また、地域の課題に新たな視点を投げかけ、取り組んでいく原動力になる。子ども事業に子どもと大人が協働することで、市民活動を支えるネットワークの拠点として、市民センターが地域づくりやまちの活性化に貢献できる。周りを巻き込む子どもの可能性や誰でも学べる場づくり、地域の新たな魅力や課題発見など、子ども事業で得た成果を他の地域や事業にも広げ生かしていくことで、持続可能な取組みになる。」とまとめました。

会長：ありがとうございました。それでは、委員の皆様方全員から、一言ずつ全体を通しての修正点や改善点についてのコメントをお願いします。何もないということであれば、それで結構です。修正点については、各グループ担当の社会教育主事の先生方、ホワイトボードにチェックして修正をお願いします。では、第1グループの委員の方からお願いします。

委員：第1グループから第3グループのまとめを通して見て、言いたい内容はほぼ重なっているように思いました。

少々気になったのは、第1グループは、観察者が「自分達が見に行つてこのように捉えた」という書きぶりですが、第2グループでは、「市民センターの責務は～である、市民センターがやるべきことは～である」という書き方になっている。第3グループになると、その両者という感じで、主体が審議会のメンバーなのか、それとも市民センターなのか、ズレがあるように感じました。これは、全体に関わるので、意外に難しい問題です。

委員：第2グループの文章で、「学校や学年を越えた交流」「地域住民との交流」という文言の後、もう一度「学校、家庭、地域」と繰り返さない方法はないかと考えていました。文章にすると、言葉が重複していて気になりました。

委員：今回、第1グループでは「子どもの人間性」という言葉の発案があり、この一言で大分深まった気がしています。各グループそれぞれの視点から総合的に見ることにより、市民センターの取組みがよ

く見えてくると実感しています。細かいところで、文章の直しなどおそらくあるでしょうが、私は概ねこれで良いのではないかと思います。先ほども指摘がありましたが、主体、視点の置き方によって書きぶりもまた変わってきますので、そこは検討の余地があるのではないかと思います。

会長：ありがとうございます。では、第2グループの委員の皆さんお願いします。

委員：第2グループの文章について、若干説明します。基本的に、最初の2行で今までの市民センターの役割はどういうものであったかを語っています。それを踏まえて、どのような問題点があるのか、それに対してこのようにすれば良いのではないかと、そして最後に、「さらには」以下の部分ですが、今後、市民センターが今までの役割を越えて、他の市民センターと連携し、他地域の事業との交流ができる場を持った方が良いのではないかとという提案になっています。第3グループでは、子ども事業で得た成果を他の地域や事業にも広げていくことが必要だろうとしていて、これも同じような提案だと思いますが、おそらく観点が違うのではないかと。我々は、市民センターの役割としての観点から、このような新たな取り組みをお願いしたいとしましたが、第3グループは、別の観点から、そのようなものが必要だろうとされていて、その点については非常に意を強くしました。

委員：今回、「子どもの視点」「市民センターからの視点」「地域づくりからの視点」という3つの視点を掘り下げていくことによって、皆さんが色々なことを共有できたのではないかと思います。私は、当初「地域づくりへの広がりからの視点から」のグループに入ろうと考えていたのですが、それでは、自分で学ぶことができないと思い、あえて「市民センターの役割の視点から」のグループに入りました。子どもを主体とした様々なことを学ぶことができ、非常に良い時間を持てたと思います。

委員：各グループとも的確に議論がまとめられていると思います。ただ、第1グループの文章は、事実を述べているだけになっており、この「まとめ」の趣旨としては、「新しい取り組みの方向性を示す」ということでしたので、観察した事実を踏まえて、最後に方向性を示すような表現が入るようにすると良いのではないかと思います。

委員：前回から参加して、ある程度把握できるようになってきました。どのグループもすばらしいと思います。

会長：第3グループお願いします。

委員：前回、前々回と参加せず、皆さんが重ねてこられた議論に勝手な議論を加えまして、特にホワイトボード上の赤字の部分の意見などを付け加えさせていただきました。実は、私としてはさらに言いたいことがあります。「課題」という言葉を加えさせていただきましたが、少子化の中、子ども達がこれから担う世の中では、暮らしを担う人達の母数がかなり減ってくるということを考えると、実は非常に深刻なものになるかもしれません。課題があるかもしれないから、何とかしろといってもどうにもならないような気がするのです。その深刻さをむしろ少し楽しみながら、このような大変なことがあるかもしれないということを共有する機会を持っていただく必要性をどこかに入れたいと考え、「課題」という言葉を入れ込みました。

委員：新しい取り組みの方向性としてまとめるという中で、それぞれのグループが別々に議論をしてきたという関係で、評価と今後の方針、目指していくべきところなど表現が分かれているところがあると思うので、事務局等が、表現を統一していけば良いのではないかと思います。

委員：私も今の意見に賛同します。短い時間の中で議論し、色々と加筆修正するというのは、皆さん本当にすばらしいと思います。

第 3 グループとしては、もっと色々と入れたい事柄がたくさんあって、特に、課題に対しての提言の部分は、時間があればもう少し詰められたかと思います。現状のままでは惜しいので、事務局に趣旨を伝えて入れ込んでもらえればと思っています。

とはいえ、総合的に見ると良くまとまったというのが感想で、勉強させていただき感謝しています。

委員：文言については、皆さん多くの言葉を丁寧に紡いでいただいて、とてもすばらしいと思いました。

違う視点から見ているにもかかわらず、学年や学校を越えて活動している、大人が支援している、その地域の魅力的なものを探している、その活動の拠点が市民センターであるということが、3つのグループの内容全てに共通していると感じました。

副会長：今日は、新たに 2 人の委員に加わっていただき、課題をはじめ色々な言葉をいただきました。もう少し話し合いの時間が欲しかったのですが、とにかく委員でまとめることができました。「子ども事業」は子どもが主体なので、自己肯定感という言葉 皆さんから出していただいたのが、とても良かったと思います。

会長：ありがとうございました。

ここからは、若干予定を変更して、今からもう一度ホワイトボードを戻して、11 時 15 分から 20 分を目途として、まとめる視点を整理したいと思います。例えば、第 1 グループでは、観察者の視点の後に、子どもの人間性と主体性を育てるためには、さらにこういう方向性があったらどうかといった一文を加えたらいかがでしょうか。また、第 2 グループでは、市民センター職員の取り組みはどうだったのかという観察者の視点からの一文が、最初の部分のどこかにあると全体の整合性が取れるかと思うのですが。第 3 グループは、まだ書き足りないというところがあれば、時間までに書いてまとめていただければと思います。

その後は、すでにほぼできあがっていますから、副会長と私に最終確認をお任せいただくということでいかがでしょうか。

(了 承)

それでは、11 時 20 分からの最後の 10 分間は、今期を振り返っての総括の時間とさせていただきますので、それまでの締めのグループ討議、よろしくお願いいたします。

(グループ討議の結果、各グループのまとめは次のように改められた。)

・第 1 グループ

学校教育とは異なる場としての各市民センターにおいて、創意工夫した子ども参画型事業が行われている。その現場を視察して、生き生きと活動している子ども達の姿を見ることができた。の

びのびと意見を言い合えること、子ども達が年齢や学年を越えて協力できていること、地域の特徴を生かして活動していること、様々な大人たちが支援していることなどが実現できていると考えられる。子ども達が地域づくりに参画し役立っているという自己肯定感を育むことにつながっている。さらに多くの子ども達と地域を、市民センターを核として巻き込んでいく必要がある。

・第2グループ

市民センターには、地域の中で、子どもと地域の団体をつないだり、地域住民との交流や学校や学年を越えた交流を確保する役割があり、その役割は概ね達成されていた。

それを踏まえ、市民センターでは、職員が子ども達と共に歩む気持ちを持って、学校、家庭、地域だけではできない活動を提供し、子ども達の豊かな発想やおもてなしの心を育むことを心掛ける。また、子どもと地域住民の積極的な関わりを生み出すため、幅広い活動の場を提供し、その成果を持続可能な取り組みにしていくことに努める。これらの活動を通じて、多様な人々や団体とのつながりを作っていくことを求められている。

さらには、今後子ども達の飛躍のために、市民センター相互が連携し、他地域の事業と交流できる場を確保する必要がある。

・第3グループ

子ども達の視点による活動は、地域の魅力の新発見と、まちを元気にする力があり、周りを巻き込む力がある。また、地域の課題に新たな視点を投げかけ、取り組んでいく原動力になる。

子ども事業に子どもと大人が協働することで、地域に対する多角的なまなざしや意識を醸成することが期待される。具体的には、周りを巻き込む子どもの可能性や誰でも学べる場づくり、地域の新旧の魅力やこれから直面するであろう課題の発見がある。

子ども事業で得た成果を他の地域や事業にも生かしていくことで、市民センターが市民活動を支えるネットワークの拠点として地域づくりやまちの活性化に貢献でき、持続可能な取り組みになる。

会長：各グループの皆さん、本当にありがとうございました。

それでは、皆様から、今期2年間の取り組みを振り返っての感想を一言ずつお願いします。

委員：この審議会は非常に前向きな会で、私自身参加して学ぶところがたくさんあり、感謝しています。

今日は3つの視点からの議論ということで、私は子どもとの関わりが多いことから、この「子どもの主体性を育てる視点から」のグループに加わりましたが、皆さんの色々なものの見方、感じ方を伺って改めて学びとなりました。

最後に、「さらに多くの子ども達と地域を市民センターを核として巻き込んでいく必要がある。」という一文を今後の方向性として加えましたが、この後に第2グループ、第3グループのまとめへとつながっていくということで、本当に良くまとまったと感じています。

委員：今期は、会長・副会長のお力もあり、非常に画期的な会議の形となって、皆さんと活発な議論ができました。このコロナ禍で、人と関わるのが困難な中、直接に話し意見交換できることがどれだけ大切か、本当に勉強させていただきました。

私は、社会学級という、やはり人と関わることが一番大切な組織にいますが、今後どのように活動していくべきか考える際、皆さんから学んだご意見や活動を参考にしていきたいと思います。

委員：私は、前期から引き続き参加させていただいたのですが、会長と副会長の卓越したアレンジで、前期とは全く違った審議会になっていたと思います。前期は、政策や評価に関わる議論が中心でしたが、今期はワークショップ形式で、中身の濃い議論ができました。

個人的には、子ども達の活動の場に直接視察に行かせていただいて、子ども達の様子を学校教育と社会教育とを比較しながら考えることができ、勉強になりました。その時に聞いた「チャボの歌」は、今でも、頭の中でぐるぐると回っている状況です。貴重な経験を本当にありがとうございました。

委員：私は、公募で委員になったのですが、面接の際は緊張のあまり間違いながら回答していたことを思い起こすと、今回のようにグループに分かれ本音で話し合いができるというのは、非常に自分のためになりましたし、グループ討議は、次期の審議会でも引き続き実施していただきたいと思います。

これまでは、自分の子どもくらいしか子どもとの関わりを持ったことがなかったのですが、今回の「子ども事業」の調査研究の中で子ども達とふれあう中で、子ども達から色々なことを教えてもらい、自分も成長できたように感じています。

委員：この2年間で、これまでとは違う世界を学ばせていただきました。私は、普段、地域防災の観点から学校や地域の子供達、大人達と関わっていて、市民センターの子供達のための事業を視察するという経験は初めてでした。また、コロナ禍の中、このようにワークショップ形式で審議会を開催できるというのがすごいと思いました。オンラインやオンデマンド配信は、やはり参加していてむなく、皆さんとこのように対面で関わり合える幸せを今日も感じています。

委員：大変印象に残っているのが、やはり審議会の進め方で、このワークショップ形式です。各委員それぞれの声を聞き、また自分の意見を言えるというこのやり方には、非常に満足感を得ることができました。それをてきぱきと時間内に収めて進行された、会長はじめ事務局の皆様の手腕に本当に感服しています。

また、この委員になったことで、地域の子供達の活動を見ることができたということもあります。自分自身を振り返ってみると、朝から晩まで大学にいて、自分の子どもとすら出会うことなく朝日を迎えるといった生活をする中で、日中子供達をどのように育てるのかを確認する場がないという矛盾に陥っていました。今期の調査研究の中で、「小学校の頃から働き掛けをしてこういった活動を行い、中学校でこのようになると良いのだが、というように活動していくようになりました。」といったお話などを現地のセンターの方から伺って、センターの方の働き掛けにより、子供達が着実に育っていることを学ぶことができました。

委員：前回から出席していますが、内容はまだまだあまり分からないものの、このような形で皆さん活発に議論されていて、すばらしいと思いました。今後ともよろしくお願いいたします。

委員：大学の建築学科で教員をしているので、普段はまちづくりと言いますと、景観づくりや、ハードという側面から学生と考えることが多いのです。もっとも、私自身の活動としては、ハードというより

人とまちを発見するといったことをすることが多いのですが。

授業等と日程が重なって、視察は「チャボ！」にしか行けなかったことが心残りなのですが、その「チャボ！」に参加していた子ども達のキャラクターが立っていた、際立っていたのが想像以上でした。それは、市民センターの方々の器の大きさによるもので、こういった事業は、大人の器の大きさによってかなり左右されるのではないかと思います。

「まち」を「器」と考えると、これからの子ども達にとって、我々の暮らすこの「器」は、相当な負担になるかもしれないと、私は常々考えています。そのような状況の中でどのようにまちづくりをしていくか、こういった事業の中で、常識にとらわれない視点で、未来に向けて楽しみ、チャレンジし、冒険していったほしいと思います。

委員：市民センターの活動について、詳細には把握していなかったのですが、今回色々な事業を知り、地域のためにとても役立っていることを改めて感じました。私自身講師として何度かお世話になっていますが、その際も地域に対して非常に意味のある活動をしていると思っていました。

今後は、「市民センター」ということで、特定の学校や部活動などだけではなく、誰でもどのような環境にいても、学びがきちんと平等にいきわたること、地域により差が出ないようにすることを仙台市として目指していただきたいと思います。

委員：今回は、「子ども参画型社会創造支援事業」という市民センターの一事業について調査研究した訳ですが、一事業といってもここまでレベルが高く、本当にたくさんの方々に支えられて成り立っていることを、委員の皆様や事業に関わる方々から深く学ばせていただきました。

委員：私自身は、今まで、どちらかというと、市民センター事業には講師として参加する機会が多く、例えば、仙台の古い写真を皆さんにご覧いただいたり、地図をもとにまち歩きをしたりといったことに関わってきました。この２年間で、市民センターが内側で苦労しながらどのように取り組んでいるかを知るとともに、今後について他の委員の皆さんと一緒に考え、言葉を紡いできました。本当に貴重な２年間でした。

副会長：私も、子ども関連の活動に関わっていて、特に中学校では市民センターにお世話になり感謝しているところです。

今回、委員として参加し、視察もさせていただいて、普段は見えない子ども達、市民センター、また、周りの地域の方々の様子などを見ることができ、これまでとは違った視点を持つことができるようになったと思います。他の委員の方の色々な考えなども、とても勉強させていただきました。

会長：皆様方の優れた知見をこの審議会にどのように反映するか、副会長、事務局と毎回事前に打ち合わせをしながら、また、当日はこのようにいつも皆様方から素晴らしいご意見をいただいて、私自身が一番勉強させていただきました。ありがとうございます。

私から、一つ提案があります。会議の議事録は、ホームページにも掲載されています。掲載は文字だけとなっていますが、今回、このような会議の方式を取ったことが、議論の経過を記述したホワイトボードや会議風景などの写真も添えれば、どのようにしてこの提案が出てきたのかなどについて、各市民センターの方々にも良く理解してもらえるのではないのでしょうか。

町内会や市民センターなどで市民の皆さんが会議を進めるにあたって、こういったやり方もあるので、市民センターのホームページを見てください、と我々が胸を張って言えるのではないかと思います。

その他、皆様から何かありますか。大丈夫ですか。

それでは、このホワイトボードの記述をもとに、私と副会長に一任いただき、文章等を整理の上最終的に報告書として提出させてください。では、事務局にお返しします。

以上

会 長

会議録署名委員
